

かごしま林業普及だより

第21号

(令和8年8月)

目次

1. かごしま椿資源利活用促進協議会と優良母樹選定調査 . . .	【鹿児島指導区】	1 頁
2. 南薩地域未来の森林づくり推進会議を開催 . . .	【南薩指導区】	1 頁
3. 阿久根市の植樹イベント . . .	【北薩指導区】	2 頁
4. 「タケノコモグリハナバエ」の発生と対策 . . .	【北薩指導区】	2 頁
5. 子どもたちの元気が海へ広がる-ヒラメの体験放流- . . .	【北薩指導区】	3 頁
6. 伊佐地区緑の少年団交流集会を開催 . . .	【始良・伊佐指導区】	3 頁
7. おおすみ森林認証利活用推進協議会総会を開催 . . .	【大隅指導区】	4 頁
8. 鹿屋農業高校においてQGIS操作研修会を開催 . . .	【大隅指導区】	4 頁
9. 種子島地区再造林技術研修会を開催 . . .	【熊毛指導区】	5 頁
10. 林業技術職員スキル向上研修を実施 . . .	【普及指導・育成部】	5 頁

ホームページで試験研究や
林業普及活動、森林環境教育
などの取組を紹介しています！



鹿児島県森林技術総合センター
普及指導・育成部

かごしま椿資源利活用促進協議会と優良母樹選定調査

鹿児島指導区

椿油の生産量が全国3位（令和5年次）の本県の中でも、鹿児島地域は椿実生産量が県内の約8割を占める椿資源の豊富な地域となっています。令和6年に椿実の生産者や製油事業者など6者で発足した「かごしま椿資源利活用促進協議会」の総会及び打合せ会を6月10日（水）に実施しました。

同日に開催した総会の終了後、打合せ会では長テーブルを取り払い、イスだけを中心に集め、2人1組になり「10年後の椿生産の在り方について」を話し合いました。その中で、会員数を増やしたいという意見があり、椿実生産者や化粧品などの関連企業にも広く声かけを行い、正会員や賛助会員、準会員を増やすことにしました。

また、今年は多くの地域で椿の花は多く咲きましたが、実が着かないものが多いとの意見を受けて、原因が①病虫害か、②鳥等が少なくなったことによる受粉不良か、③椿自体の樹体衰退かを調査し、対策が必要なのではとの提案がありました。

6月16日（火）に協議会の事業計画の一つである「椿実の豊凶差を解消するための優良母樹選定調査」を桜島地区で実施しました。森林技術総合センターの研究専門員を中心に会員と共に優良木のいくつかに「取り木」の処置を行い、併せて挿し木用の挿し穂を数十本採取しました。7月8日（水）には三島村硫黄島でも選定調査を実施しました。

11月には、鹿児島市で日本ジオパーク全国大会が開催されることから、大会会場において「かごしま椿」をPRし、知名度アップを図ることとしています。（濱田肇次）



総会後の打合せ会



優良母樹選定調査

南薩地域未来の森林づくり推進会議を開催

南薩指導区

7月3日（金）に令和8年度第1回南薩地域未来の森林づくり推進会議を開催しました。

例年の会議では、前年度の実績を中心に協議を行っていましたが、今回は、地域の課題である「林業労働力の確保」及び「再造林の推進」をテーマに、管外からの伐採事業者にも参加していただき、意見交換を行いました。

はじめに、林業労働力の確保に向けて、外国人材の受入れにつながる「特定技能制度」について、県内で既に取り組みを行っている林業事業者の説明をいただきました。

参加者からの多くの質問や意見があり、林業労働力の確保に対する林業事業者や自治体の関心の高さがうかがえました。

続いて管内で再造林に積極的に取り組んでいる林業事業者から、再造林を実施するまでの苦労や森林所有者に再造林の必要性をどのように説明しているか、また、再造林に対する想いについて熱弁していただきました。

その後、管外の伐採事業者からも今後の再造林に向けた取り組みについての説明をいただき、「造林班は確保できたが、苗木の確保が難しい。」といった課題はあるものの「来年から再造林を実施する。」との具体的な方針も示されました。

会議終了後に、管外事業者と管内事業者間で苗木の手配等について打ち合わせが行われるなど、再造林の実施に向けた連携が進む様子も見られ、関係者が一堂に会して意見交換を行ったことで、再造林の実施に向けた結束につながることでと考えています。

今後も、関係者との連携を深めながら、地域が一体となって林業労働力の確保と再造林率の向上に向けた取組を進めていきたいと思ひます。（長谷川徳幸）



会議の開催状況

阿久根市の植樹イベントの開催

北薩指導区

3月7日(土)、阿久根市山下烏山地内の市有林(市立図書館建設で使用するスギ・ヒノキの伐採跡地)において植樹イベントが開催されました。

このイベントは、阿久根市が進める「たからのまちマネージャー事業」の山分野の取り組みの一環として実施され、市内の小・中学校の児童・生徒やその保護者、当マネージャー事業のメンバーなど、約50人が参加しました。

植樹会場へ向かう林道沿いでは、森林に関するクイズなどが行われ、会場までの長い坂道の疲れを和らげ、参加者の気持ちを盛り上げました。

会場では、まず「たからのまちマネージャー」の長野麻子さんによる「森の働き」についての講話が行われ、その後、動物たちの餌となるドングリを实らせるスタジイやマテバシイの苗木を植樹しました。植樹の後は、丸太切り競争やジビエ料理の試食があり、参加者は阿久根市の山の魅力を身近に感じることができました。



植栽会場からの眺望

植樹会場からは、再造林地、その向こうに広がる山林、阿久根市街地、さらにその先の海まで見渡せます。山と海がつながり、私たちがその間で暮らしていることや、講話で聞いた森の働きが実感できる、素晴らしい眺めでした。(岡崎博樹)

タケノコ害虫「タケノコモグリハナバエ」の発生状況と対策

北薩指導区

4月中旬、薩摩川内市祁答院町のタケノコ生産者から、タケノコ(モウソウチク)に大量のハエが集まり困っているとの連絡がありました。

調査の結果、このハエは「タケノコモグリハナバエ」という害虫で、2018年頃に中国から侵入したと考えられています。

幼虫がタケノコの内部に入り込み、品質低下を引き起こします。特に、3月下旬から4月のタケノコの収穫期に発生が多く、掘った直後の切断面や柔らかい部分に被害が出やすいと報告されています。現在のところ、収穫前の地中にあるタケノコへの影響は確認されていません。

対策としては、掘ったタケノコをできるだけ早く出荷し、たけのこを入れるコンテナはネット等で覆ってハエの侵入を防ぐこと。また、出荷しなかったタケノコを山林内に放置しないことが重要です。

今期のモウソウチク、ホテイチク(コサンダケ)の出荷は終了しましたが、今後も引き続き情報収集に努めます。

(岩 智洋)



タケノコモグリハナバエ(成虫)

子どもたちの元気が海へ広がる—長島町でヒラメの体験放流

北薩指導区

4月14日(火)、長島町の小浜漁港で、蔵之元小学校の「緑の少年団」を含む児童の参加のもと、ヒラメの体験放流が行われ、水産と林務の普及指導員でサポートに当たりました。

昨年に続いて実施された今回の体験。当日は雨模様で天気が心配されましたが、そんな不安を吹き飛ばすように、子どもたちは元気いっぱい！無事に23,000尾のヒラメの稚魚を海へ送り出すことができました。

はじめに、水産業普及指導員からヒラメについてのお話を聞き、どんな魚なのか、なぜ放流を行うのかをみんなで学習。子どもたちは真剣な表情で聞いていました。その後はいよいよ体験放流へバケツいっぱいの稚魚を大切に抱えながら、元気よく海へ放流しました。

寄せる波にてこずりながら少しでも沖へ沖へと夢中になるうち、気づけば雨靴の中が水浸しに。中には、雨靴の中へヒラメが入り込んでしまうという場面もあり、会場は笑い声に包まれました。今回の体験を通して、子どもたちは海や魚をもっと身近に感じることはできたのではないのでしょうか。

蔵之元小学校では今後、森林学習と「緑の少年団」活動の指導を予定していますが、海と森林のつながりを理解する際にこの放流体験が活きてくると感じました。「水産+林業」この貴重な取り組みを、これからも支援していきたいと思います。

(中村信一)



海や魚の学習



大きくなってね！

伊佐地区緑の少年団交流集会を開催

始良・伊佐指導区

5月30日(土)、毎年恒例の「伊佐地区緑の少年団交流集会」を高熊山及び本城緑の少年団員、育成会など23名の参加により伊佐市の高熊山と牛尾小学校で開催しました。

交流集会では、高熊山山頂までの約2kmの道のりを歩きながら10問のクイズを解くクイズラリーを行いました。高熊山の高さは？、伊佐市内の他の山と比べてどちらが高いか？などクイズは案外難しかったようで、7問の正解が最高得点でした。

続いて、育成会の要望により実施した木工体験では、木製フォトフレームづくりに挑戦しました。材料となる木製の飾りは、管内の製材所から葉、樹木、花、動物等をモチーフにレーザー加工した約30種類を提供していただき、少年団員は好きな飾りを選び、オリジナルのフレームづくりに熱心に取り組んでいました。出来上がったフレームには、個性あふれる様々な作風や色使いが見られ、子供たちはこうした体験を通じて木のぬくもりや香りなどに触れて、木の良さを認識し、お互いの交流を深める有意義な時間になったと思います。

最後に、今回の交流集会の開催にあたりご理解とご協力をいただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

今後も実施内容を工夫しながら、多くの緑の少年団の皆様が参加したくなるような充実した交流集会にしていきたいと考えています。

さらに、こうした交流活動を通じて、令和11年に開催される全国植樹祭への関心を高め、開催に向けた機運の醸成につなげていきたいと思っています。(神志那 紀子)



木製フォトフレームづくり



クイズラリー答え合わせ



おおすみ森林認証利活用推進連絡協議会総会を開催

大隅指導区

令和8年2月に発足した「おおすみ森林認証利活用推進連絡協議会」(通称:おおすみ木の都市(まち)推進協議会)の第1回総会を6月1日(月)に開催しました。

当協議会は、森林認証材のサプライチェーンの構築を図ることを目的に、FM認証及びCOC認証の取得者による川上から川下までの産学官の関係者が一体となった取り組みを行う組織として設立されました。

総会では、発足して4ヶ月の事業報告ではゼロ予算の決算と県の地域振興事業による活動報告を行いました。

令和8年度の事業計画及び収支予算案では、森林認証材に関する需給調整会議の開催や先進地研修計画の提案を行い承認されました。

さらに、当初想定していなかった会員の負担金について、会員から提案があり、森林認証材の普及に向けた会員の皆様の決意があふれたものとなり、満場一致で承認されました。

また、今後の森林認証への取り組みについて活発な意見交換が行われ、会員の方々の熱意が伺えるものとなりました。

当協議会の運営や活動では、地域振興局や林業普及指導員がアドバイザーの立場で参加しております。木材の需給に係る関係者を交えた「認証材の需給調整」や「サプライチェーンの構築」というものは、多難なこともあります。様々な方々のご指導や提案をいただき、「持続可能な木材利用」による地域の森林・林業・木材産業の活性化を目指していきたいと思っております。(神志那 仁)



有馬会長あいさつ



振興局からの実績報告

鹿屋農業高校においてQGIS操作研修会を開催

大隅指導区

6月23日(火)にQGIS操作研修会を開催しました。

大隅地域振興局においては、再造林の省力化を推進するためICTであるドローン測量やQGIS活用の普及を行っています。

今回は、鹿屋農業高校の先生方を対象に研修会を実施しました。

鹿屋農業高校では、生徒たちに対してICTの教育を進めることとしており、今年度パソコンや周辺機器の整備が行われています。

今後、QGISの活用方法などを授業のカリキュラムに取り入れ、学びの機会を広げたいとの意向で授業を実施するにあたり、まずは教員を指導していただけないかとの依頼を受け、今回の研修会を実施することになりました。

先生方へ講義ということで、恐縮ではありましたが、QGISについて、できるだけ分かりやすく操作説明等を行いました。

内容は、「QGISの仕組みや性能についての座学」と「実際に操作しながらの実習」に分けて行い、操作実習では、管内の林業事業体が行っている植栽地におけるドローン写真を利用したポリゴンの作図、面積の計測、PDF形式による出力などの実習を行いました。

約2時間の研修でしたが、終盤にはパソコンを使いこなしている先生も見受けられ、また、多くの質問をいただきました。

私自身も今回の研修が自己研鑽に繋がったと感じております。

次回は生徒たちの授業に参加し、指導させていただく予定となっております。

今後もICTの普及を通して、人材育成と再造林の省力化を推進して参りたいと思っております。(鶴田正輝)



操作研修状況



先生方への操作説明

再造林技術研修会を開催しました

種子島地区は、間伐から主伐へ移行する転換期を迎えており、林業の植栽適地における主伐後の再造林を推進するため、効率的な植栽方法など実践的な造林技術の向上を目的とした研修を実施しました。

研修には管内の林業事業体、市町の林務担当者及び公有林担当者のほか造園会社にも呼びかけ、21名の参加がありました。

研修場所は、県行造林の伐採跡地で、コウヨウザン（コンテナ苗）の2,000本/ha植栽を予定している箇所で行いました。苗木の種類、管理方法や植栽方法を説明した後、唐鍬やディブル、電動ドリルなど様々な植え付け器具を使用して植栽を実践してもらいました。

中でも充電式の電動ドリルは、持ち運びが楽で、ある程度の傾斜があるところでも体への負荷無く植穴を掘ることができると好評でした。

また、植栽作業を実践する中で尾根部と谷部が深く入り組んだ地形では、尺棒だけで植栽位置を決める難しさも浮かび上がってきました。地形に応じた植栽位置の判断は、現場での経験と技術が必要であると感じました。

管内の主伐後の再造林が効率的に進むよう、現場技能者に必要な技術の習得と、市町担当者への事業発注に当たっての業務支援を今後も引き続き実施していきます。

（富元雅史）

熊毛指導区



研修の様子



植栽作業の実践

林業技術職員スキル向上研修を実施しました

普及指導・育成部

5月19日（火）～20日（水）の2日間、入庁3年目以下の職員を対象とした「林業技術職員スキル向上研修」を森林技術総合センターで実施し、本庁各係及び地域振興局の林務・森林土木係から12名が参加しました。

研修では、本県の森林・林業の現状と課題、育林技術、林産、特用林産などの講義やグループ討議による意見交換、チェーンソーの基本操作の研修を行いました。また、蒲生木材流通センターでは、径級ごとに桟積された丸太を製材や木材輸出の事業者がその場で駆け引きしながら値段をつけ入札する状況を見学しました。

研修参加者からは、「本県の林業の強みを知る良い機会になった。」、「チェーンソーは治山工事の現場でも使われており、安全面の指導に役立てたい。」、グループ討議では「あなたが理想とする県林業技術者とは？」等をテーマに、KJ法を用いて意見を出し合い、グループ毎にとりまとめて発表し、「自分の現在の立ち位置やこれから取り組むべき事が整理できた。」、「KJ法は、今後の様々な会議を進める手法として重要と感じた。」などの意見がありました。

また、研修終了後の懇親会では新卒者や社会人卒の20代から40代の若手職員と普及指導・育成部職員の様々な年代が酒を酌み交わし、色々な話や熱い思いを聴くことができました。

今回の研修が、今後の職員の知識や技術の向上と、同期入庁職員等の繋がりを深める機会になればと考えています。

（永野昌伸）



グループ討議の発表



蒲生木材流通センターの見学